

製品名: IKBKB マウスモノクローナル抗体

カタログ番号: AMM80574

研究使用のみ

概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	IHC,ELISA
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG1
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.03%アジ化ナトリウムを含む PBS。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	IHC 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	/

抗原情報

遺伝子名	IKBKB
別名	IKBKB
遺伝子 ID	3551.0
SwissProt ID	O14920
免疫原	大腸菌で発現した IKBKB の精製された組み換え断片。

背景

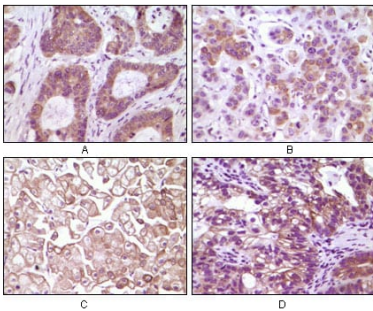
IKBKB（B 細胞中の κ 軽鎖ポリペプチド遺伝子エンハンサーの阻害剤、キナーゼ β 、IKK2/IKKB と呼ばれる）は、IKK- α 、IKK- β 、IKK- γ 、IKAP で構成される IKK 複合体のメンバーです。IKK 複合体による I- κ B のセリン残基のリン酸化により、NF- κ B が I- κ B か

ら遊離し、ユビキチン化によって分解されるように標識されます。IKK- β はNF- κ Bを活性化し、IKB- α と β をリン酸化することが示されています。IKK- β の活性化ループにある2つの部位のリン酸化は、TNFおよびIL-1によるIKKの活性化に不可欠です。活性化されると、IKK- β は自己リン酸化され、IKKの活性を低下させて炎症反応の長期的な活性化を防ぎます。さらに、IKK- β の活性はMEKK-1によっても制御されます。

研究分野

PI3K-Aktシグナル伝達経路、mTORシグナル伝達経路、MAPKシグナル伝達経路

画像データ



パラフィン包埋ヒト大腸癌 (A)、乳癌 (B)、腎細胞癌 (C)、膀胱癌 (D) の免疫組織化学分析 DAB 染色による IKBKB マウス mAb を使用して膜と細胞質の局在を示しています。